

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	令和2年度第1回松阪市総合教育会議
2. 開 催 日 時	令和2年8月26日（水） 15時30分～17時
3. 開 催 場 所	松阪市役所 第2分館 教育委員会室
4. 出席者氏名	出席委員 竹上真人市長、中田雅喜教育長、長島彩子教育長職務代理者、岡田光生教育委員、長井雅彦教育委員、谷口雅美教育委員 事務局 家城企画振興部長、藤木経営企画課長、山路経営企画課政策担当主幹、小川経営企画課政策経営係長、鈴木教育委員会事務局長、村田教育委員会事務局次長、中西教育総務担当参事兼教育総務課長事務取扱、小林教育総務課教育政策係主任、藤武公民館マネジメント担当参事兼生涯学習課長事務取扱、永田給食管理担当参事兼給食管理課長事務取扱兼松阪市学校給食センターベルランチ所長事務取扱、刀根スポーツ振興・国体担当参事、松林スポーツ課長、塩野学校教育課長、尾崎学校支援課長、小泉学校支援課子ども安全・安心担当監、西出子ども支援研究センター所長
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	2人（内、報道関係2社）
7. 担 当	松阪市企画振興部 経営企画課 TEL 0598-53-4319 FAX 0598-22-1377 e-mail kei.div@city.matsusaka.mie.jp

・協議事項

- 1) 教育大綱に係る総括と今度の方向性
- 2) スポーツを通して子どもたちが身につける力

◎内容録は別添

令和2年度 第1回松阪市総合教育会議議事録

開催日時 令和2年8月26日(水) 15時30分～17時

開催場所 松阪市役所 第2分館 教育委員会室

出席委員 竹上真人市長、中田雅喜教育長、長島彩子教育長職務代理者、岡田光生教育委員、長井雅彦教育委員、谷口雅美教育委員

事務局 家城企画振興部長、藤木経営企画課長、山路経営企画課政策担当主幹、小川経営企画課政策経営係長、鈴木教育委員会事務局長、村田教育委員会事務局次長、中西教育総務担当参事兼教育総務課長事務取扱、小林教育総務課教育政策係主任、藤武公民館マネジメント担当参事兼生涯学習課長事務取扱、永田給食管理担当参事兼給食管理課長事務取扱兼松阪市学校給食センターベルランチ所長事務取扱、刀根スポーツ振興・国体担当参事、松林スポーツ課長、塩野学校教育課長、尾崎学校支援課長、小泉学校支援課子ども安全・安心担当監、西出子ども支援研究センター所長

傍聴者 2人(内、報道関係2社)

1. 市長あいさつ

改めまして、皆さんこんにちは。令和2年度第1回目の会議でございます。法律が変わり教育委員会の制度が変わったのは4年か5年前。本来は教育委員会のもと教育は行われますが、教育委員会の委員長に教育長がなり、委員長を任命するのが市長。教育委員会の独立性が保たれていたのが、多少、市という組織との関連づけを深めたという話です。例えば、災害時の避難所をほとんどの自治体が学校の体育館を指定している。この真夏の熱中症が特に心配される時に、体育館では厳しいということで図書館を基本的に避難所とし、ある程度エアコンがきく所で過ごしていただくという形に変えてきています。そこが近づいた一つの成果なのかもしれません。教育環境の変化に伴い市長部局と教育委員会がある程度連携をしながらやっていかないと、少子化の影響、人口減少という時代背景もあるので、地域の子どもたちを輝かせていくためにこういう制度に変わってきています。

今日は皆さん方に2つのことをお諮りしていただきたい。今までやってきた教育大綱の総括と今後の方向性。それからスポーツを通して子どもたちが身につける力の2つをテーマとさせていただきました。何卒熱心なご議論をいただきますようお願いいたします。

【松阪市総合教育会議設置要綱第4条に基づき、竹上市長が議長となり進行】

市長)

では、事項書に沿って会議を進めてまいります。松阪市総合教育会議設置要綱では、会議は公開することとなっておりますが、非公開情報などが含まれる場合には、非公開とすることもできます。今日は、事項書のとおり教育大綱に係る総括と今後の方向性、それとスポーツを通して子どもたちが身につける力についてご協議いただく予定です。非公開情報が含まれる案件ではございませんので、本日の会議は公開とさせていただきますのでよろしくお願いします。

2. 協議事項

1) 教育大綱に係る総括と今後の方向性について

市長)

それでは、早速協議に移ります。

事項1の教育大綱に係る総括と今後の方向性ですが、こちらは事務局より説明をお願いします。

【経営企画課より教育大綱に係る総括と今後の方向性について説明】

市長)

事務局より教育大綱に係る総括と今後の方向性について説明がありましたが、この件についてご意見等をお聞かせいただければと思います。

委員)

振り返りの学力のところ、すごく良いと思ったのがICT機器を利用した取組のところ、ICT機器を使うことによりお互い協働し学びあえることを、松阪市が先進的に行っていることがすごく評価できる。

大抵の指標が伸びているなかで、読書の指標は横ばい。読書推進活動は難しいところがある。そのような中、朝の読書運動は松阪市でも一定の学校が参加している。本は強制的に読ませるものではないのではないかという議論もあるが、普通の授業も教科書の指定のページを開いて強制的なことをやっている。実は読書はゆるやかな強制力を持った取組ではないかと思う。効果的な読書運動を広げていってもらおうと伸びていくのではないか。

委員)

GIGAスクール構想は広げてもらいたい。指導体制づくりをしっかりとさせていただきたい。いろんなクラウドサービスからいろんな情報が入ってくると思う。学校の先生方の働き方改革にも影響してきて、良い方向に向かうのではないか。

委員)

読書に関してですが、学校によって読書に取り組む姿勢に差がある。地域の方において、図書室で読み聞かせ会を開催したという話も聞いた。一概に平均という数字に捕られると良くないのではないか。その地域の方を図書室に迎えてやるというのもひとつ。資料3の郷土教育の指標のゲストティーチャーリストの登録人数100人と書いてあるが、数値があがっていない。折角目標に挙げて地域の方々との協働ができていないのが非常に残念です。

事務局)

郷土教育のゲストティーチャーは、小中学校とも盛んに取組をしている。特に小学校では昔遊びをすとか、地元のことを地域の人に教わろうとか自校で取組を進めています。各校がゲストティーチャーを持っているが、これを登録制にしようとしたが、制度として成り立っていない。

委員)

キャリア教育の将来の夢や目標を持っているというところは中学校が低い。子どもたちが夢や目標を持てるような関わりをしていかないといけない。

読書のところで、図書館を使った調べるコンクールは、本をたくさん読めて自分で意見をまとめる良い取組。出点数が減っていることが残念。調べる技術、まとめる技術が子どもたちからついてくる。市をあげてやっているところもある。松阪のことをもっと知っていくことに繋がる。ここの数値が上がるように。

事務局)

調べる学習コンクールは、各小中学校と昨年から大人と子どもの共同作業もできた。今回は特定の学校からの応募が少なくなったため減っている。調べる学習は図書館が力を入れている。コロナの関係で止まっているが、コロナと付き合いながら広げていきたい。子どもたちの学ぶ力をつけさせていきたい。

教育長)

教育大綱について、それぞれの項目について総括をした。1つ目の学力では一定の成果が出た。今回のコロナに関わっていろいろな課題が出てきましたので、次の大綱で生かしていきたい。先ほどご意見をいただいたことについては、次回の大綱でより良い結果が出るようにしていきたい。松阪市が教育大綱を基に、教育ビジョンを作り進めてきました。学ぶということ、スポーツ、体験により子どもたちが成長していく。そのことはいつの時代も変わらない。コロナでも変わらない部分。GIGAスクール構想や新しい部分については、積極的にタイムラグなしで進めたい。

子どもたちも教職員も一体となって学力や子どもたちのさまざまな体験をしっかりとやってもらった。それを更に生かした次のステップを考えていきたい。

市長)

皆さんからご意見をいただき、次回教育大綱を令和2年度に作っていくこととなります。教育大綱と教育ビジョンは繋がってまいります。特に今日いただいた図書館の読書習慣。GIGAスクールを取り入れていこうという流れ。ICT機器を取り入れた教育をどう上手にしていけるかは、これからの教育の質に関わる話です。この問題に関しては大きく取り入れていこうと思います。これからの教育を取り巻く環境は、教職員の働き方改革も含めてきちんと教育が提供できるようにやっていければと思います。

2) スポーツを通して子どもたちが身につける力

①子どもたちにつけたい力

市長)

次の事項2「スポーツを通して子どもたちが身につける力」です。先程の現行の教育大綱の振り返りにもありましたが、近年、子どもたちの体力・運動能力は低下傾向にあり、活発に運動する子どもと、運動をほとんどしない子どもと二極化している状況にあります。また、この新型コロナウイルスにより、新しい生活様式が求められるなか、運動する機会も阻害されています。

スポーツは基礎体力を高めるだけでなく、様々なことを学ぶことができるものです。そこで、今回は、子どもの頃からスポーツと親しむことができるような方策について議論していただければと思います。

また、協議の前にお手元の(資料5)をご覧ください。

【資料5について説明】

それでは、協議に入りますが、短い時間で有意義な議論となるように、別紙1の論点①の「子どもたちにつけたい力」と論点②「スポーツを振興させる具体的な手立て」についてご意見等をいただきたいと思います。

まずは、論点①の「子どもたちにつけたい力」についてご意見等をお聞かせいただければと思います。

委員)

アスリート系とレジャーで気楽に参加できる種目を両立させて、地域も活性化していくような大会を上手に利用できると良いと思う。

また、今度は松阪マラソンでは非常にたくさんのボランティアが必要になる。子どもも含めていろんな形で大会に関わっていくような取組が進めていけたらと思う。

委員)

子どもたちにつけたい力というと基礎体力です。子どものうちは体がないことには技術も心も育たない。基礎体力をつけさせるには子どもたちが如何に興味を持って、スポーツや体づくりに目を向けるかが問題です。

委員)

子どもたちにこれやってあれやってでも良いので、継続してもらうことが大切。継続してもらうためには指導者が大切だと思います。子どもにいかに興味を持たせて面白おかしく続け、また勝ったり負けたりの経験を継続させることが大切で、つけて欲しいというのは、大人が大上段で見すぎた感じがする。体験した子どもたちが自然に力をつけていくこと。振興していくための手立ては指導者が大きい。

委員)

1つ目の子どもたちにつけたい力は基礎体力。それと個人が尊重される時代での協調性、社会性、上下関係などはスポーツを通して身につけていくことかと思います。

学校単位がなくなってきているのが残念。昔は地域で、今はクラブチームに託されている。松阪のという感じではなく残念。

2つ目は、見る側の応援も含めてチームで松阪として盛り上げていけるように持っていければと思う。松阪全体で応援できる。する側応援する側がいてスポーツ。全体がそうならば良いと思う。見て楽しめる、応援して楽しめる、やって楽しめる。揃ってできるものが良い。

委員)

体育協会がどういう過程でこのいろいろな教室ができたかわからないが、松阪としては、レスリング、スケートボードを突出してやっても良いのではないかと。

教育長)

皆さんからいただいたことは、日頃から努めているつもりです。子どもたちがスポーツを通して体験できること。こういう機会をしっかりと担保するとともに、新しい何かを作っていくことが大切だと思います。スポーツ団体の登録者数を見ると、生徒数は激減しているが、登録者数は横ばい。スポーツを支える行政なり地域が松阪市の基盤になっている。来年は国体、マラソンとスポーツイヤーになりますので、この機会を通じて観光や福祉など総合的に関わりながら進めていきたい。

市長)

なぜ今回スポーツを論点にしたかということ、コロナでいろんな活動が相当制限されている。子どもたちの問題行動も多くなっている。そのような中で、スポーツが持つ力の見直しが必要ではないかとテーマとして挙げさせていただいた。

一番の問題は指導者の問題でスポ少の数が減ってきている。指導者不足や保護者の負担がその原因の一つに考えられる。昔は学校単位で放課後の体育の運営に関わるような時期があった。それが働き方改革ではないが、スポーツ少年団に移行していった。スポーツをやりたい人がやれる環境をいかに作るか。

もう一つが大人になった時に、スポーツをやらない子は大人になってもやらない。子どもの頃からスポーツをしていると大人になっても何らかのスポーツに関わる。長

い目で見ると、行政的には健康寿命の話になる。普段から汗を流す習慣があることが大切。スポーツが盛んな地域は健康なまちのイメージがある。アスリート系は注目されるが競技スポーツがすべてではなく、親子で楽しむようなレジャー系も大事。協調性、人間形成のうえでも大事なところ。

②スポーツを振興させる具体的な手立て

論点②「スポーツを振興させる具体的な手立て」について、ご意見等をいただければと思います。

委員)

アスリート系のクラブチームは増えてきたのでクラブチームは置いておいて、一般的な子どもたちを如何にスポーツに親しませるかがポイント。働き方改革も含めて、親が平日の夜スポーツに親しめるような方策をする。そこに子どもも一緒に連れて行ったらという視点ではどうか。

委員)

そのための方策として、松阪市でサマータイムを導入してはどうか。

市長)

サマータイムの最小単位は市でできるのか。国でやってもらえると良いですが。

委員)

ヨーロッパでは、学校を離れて、種目別のスポーツ団も離れて、NPO 法人や企業系がスポーツクラブを運営している。

中長期的にめざしていくと、ランニング、ゴルフ、卓球、将棋、囲碁などサークルみたいなものを、NPO 法人や企業系で作ると長く親子で、地域でスポーツを楽しむのではないかと。そういったものが必要になるのではないかと。

委員)

平日の夜は忙しいです。専業主婦が減ってお母さんの負担が大きくなって、お父さんが手伝い、お父さんが出られない。時代の流れで致し方ない。

もうひとつが、こういう年代でやりなさいという松阪市でできる運動会。その年代がないとチームが成立しないというスポーツにするとか。

必然的にハードなスポーツはできないが、ゆるいスポーツ、レジャー的に楽しめるものが定着してくると良いのではないかと。地元愛も出てくる。

委員)

試合方式でトーナメントではなく、ひと工夫してリーグ戦にするとか。レクリエーション的な大会方式にするとか。

3) その他

市長)

折角の機会ですので、皆さんから何かあれば、次期教育大綱でこういう視点は大事にとか、今のコロナの関係で特に教育に関してこういうところを配慮したらどうかなど、あれば教えていただければと思います。

教育長)

コロナの状況ですが、20日から学校が始まっています。そのなかでコロナが心配で子どもを学校に出させたくないという家庭もあります。子どもたちの心のケアを最大限にしていけないといけない。合わせてコロナが当該校で発生した場合の教職員の校内研修やスクールカウンセラーや相談員の派遣など行っています。きずなというコロナの相談窓口も作っていますので、子どもの心、保護者の心に対応していけないといけない。

3月～5月学校が休業し学校により対応が異なるため、7月～8月に教育課程に必要な学力の調査をしたが大きく差異は出ていません。もう一度10月に学力調査を行いどれぐらい変化があるかを見て、今の中3の子どもたち、小6の子どもたちが教育課程に必要なことを学んでいけるように準備をしたい。今回大きく差異が出たのが、家庭でのWi-Fiなどの環境の差です。今回のGIGAスクール構想での環境整備や中身の整備をしていく。特にGIGAスクールでは学びを変える。特に家庭学習を変えていくことが必要なことのひとつです。

クーラーの設置という教育環境を整えてもらったことに感謝している。あらゆる関係者から評価していただいた。教育環境は今以上に大きく変わるのではないかな。環境づくりが松阪の教育の基盤を支えていると思う。

委員)

コロナが心配で子どもを休ませている家庭がある。情報をすばやく仕入れ、対応を素早くする学校の対応ができれば、親御さんも安心して子どもを学校に行かせることができると思います。対応の仕方を間違えないようにしてほしい。

GIGAスクールなどもっと充実して、教職員のためにもなるようなクラウドサービスもあるので、あらかじめ勉強して取り入れてほしい。

委員)

GIGAスクール構想におけるICT機器をいずれ導入されると思うが、ハード面だけでなくソフト面の充実をお願いしたい。授業風景を撮って送るだけでなく、そのカリキュラムを考える必要がある。働き方改革もあり先生に負担がかからないように、教育委員会を含めて全員でどう進めていくか検討が必要だと思います。

教育長)

飯高東中学校で、子どもたちが三重県出身のCMプロデューサーに手紙を書いて、リモートで講演をしてもらったという授業ができています。指導者だけでなく子どもたちの自ら学ぼうとする力や、知りたいという力も拾い上げていきたい。

委員)

ICT学習のメリットだけでなく、デメリットも考えて欲しい。できない子が出てこないか心配なところ。大規模校でいかにうまく活用できるか大変なところなので、サポートは必要。ICT教育により、家から出ない子が増えないように願うところ。人と人とのふれあいを。どちらかに傾かないようにしていかないといけない。

家庭の不安は、学校で広がって自分が職場でうつすこと。正確な情報を早く掴んで適切に流すことが大事。間違った情報が流れるのが怖い。

タブレットですが働き始めたらパソコンを使う。キーボードタッチだけは押さえておいて欲しい。

市長)

GIGAスクールは3年かけて入れる予定が、全国でみんな入れるとなった。松阪は既に入っていたところがあって、その先生方が分散していけばある程度やっていける。機器は国が配ってくれるので、松阪の場合はどれだけのソフトをどうやって用意できるか。お金がかなりかかる話です。

教育は地域格差、収入格差がある。GIGAスクールになれば頑張る子が格差なしに伸びていくはず。実現できるような環境を整えてあげることが私の仕事。いかにそういうことを教えられる人材を育てられるか、子どもたちをいかに伸ばしていけるか。人と人との関わりを取り入れていくことをちゃんとやらないと人間形成で問題になる。大きな課題です。

市長)

それではその他の項で事務局から連絡があります。

事務局)

次回の開催について事務局よりお知らせします。次回の開催日は11月頃を予定しております。開催日が決まりましたら、追って連絡させていただきますのでよろしくお願いいたします。事務局からは以上です。

市長)

では、これにて令和2年度第1回松阪市総合教育会議を閉会させていただきます。本日は、誠にありがとうございました。

《17時 終了》